

山内浩司

長谷川浩之



介護の価値に臨む

「歯科医療の観点から高齢者医療を考える」



PCP丸の内デンタルクリニック

「健康の源はお口の中から」東京駅八重洲南口から徒歩1分という好立地に構える歯科医院。豊富な歯科設備と、それぞれ得意分野を持つ複数の歯科医師により、矯正からインプラントまで幅広い治療を受けることができる。都会的でありながらリラックスできる内装も特徴的。全国各地から患者さんが訪れている

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-11-1
パシフィックセンチュリープレイズ丸の内2F
TEL: 03-5221-8241
URL: <http://www.smiline.org/pcp/>

日本の歯科医療は、海外よりも遅れている？

湖山 先進的な歯科・口腔ケアの医師の中でも、私が最も尊敬する長谷川先生、山内先生のお2人にお越しいただきました。長谷川先生は、東京駅のすぐそばにある、この鼎談の会場でもあります「PCP丸の内デンタルクリニック」を経営される傍ら、湖山グループの介護施設の訪問歯科でもこ

活躍されています。

山内先生は銀座で最先端な街に相応しい歯科治療クリニック「BlancPa銀座」を営んでいらつしゃいます。お2人に共通しているのは、最先端だということ。日本の歯科医療は保険制度などのせいで実は海外から遅れを取っています。日本の歯科は、削ること、歯を抜くことしかできないのです。先進的なアメリカでは、虫歯にさせないことこそが歯医者の第一義と考えられているので、予防や口

高齢者に増えている“誤嚥性肺炎”

口の中には400〜800種類の細菌が存在

療を終わらせる臨床をメインにクリニックを開いています。

湖山 実は私も山内先生に患者としてお世話になっているのですが、本当に歯を2時間くらいで作ってしまうんです。すぐに出来上がるので本当に助かりました。

山内 ありがとうございます。最初は一日で作るとするのは苦労しました。そこで、CAD/CAMというコンピュータを使ってセラミックから歯を削り出す最先端の技術と、歯科技工士さんの職人的

常に重要です。長谷川先生が行っている訪問診療は今後より普及すると思っています。

長谷川 おっしゃる通りで予防は日本の歯科治療の課題のひとつです。特に近年、誤嚥性肺炎という病気が高齢者の方に増えています。誤嚥とは、口から食道に入るべきものが気管に入ってしまうことなのですが、この誤嚥をした時に細菌が気道に入ってしまうことで肺炎を発症してしまうのです。訪問診療ではこの予防にも力を入れて

な技術を融合させることで実現しました。やはりこのご時世、通わなくていい歯医者」というニーズは、忙しい方が多いので非常に高まっています。例えば、自宅で家族の介護をしている方だったりすると、本当に時間が無くて、虫歯があっても我慢しているという方も多々います。そういう方に一日だけで治して差し上げたいと努めています。しかしながら、そもそも虫歯にならないようにするため、日頃から歯の健康状態を歯科医師に診てもらおうということも非

腔ケアに力を入れていますよね。

山内 私はニューヨークの大学に留学しインプラント治療を学んできたのですが、アメリカと比較すると、確かに日本の歯科医療が劣る部分を痛感しました。一方で東洋人、特に日本人の手先の器用さを活かした治療はアメリカでも非常に信頼され「歯の手術は絶対にアジア系にお願いしたい」という歯科の教授がいたほどです。そこで日本人らしい、器用で職人的な部分を歯科に応用したいと思いい、現在は来院当日にインプラント治

います。

湖山 介護施設で誤嚥性肺炎で亡くなる方が増えてきて、非常に問題になっていきますね。防ぐには、どのようにすればいいのでしょうか？

長谷川 まずはやはり口腔を清潔にすることです。細菌は空気中のどこにでも浮遊しています。そして口の中にも、400〜800種類の細菌が存在しています。特に入れ歯には細菌が繁殖しやすいのですが、菌磨きや丁寧なクリーニングをしてもらいたいです。そのうえで、気管に細菌が入らないよ

The value of care?

介護の価値に臨む



大きめの窓により、開放感のある施術スペース。東京駅付近の高層ビル群や、走行中の新幹線を眺めることもできるアーバンな環境が大いに生かされている



インプラント治療などを行う手術室。ラグジュアリーなソファのおかげで、リラックスして手術を受けられるように工夫されている。また、「マイクロスコープ精密治療」も受けることが可能。根管治療の精度を上げて、将来的な抜歯のリスクを低減することができる



こちらの位相差顕微鏡を利用し、口腔内の細菌をリアルタイムで見ることができる。これによる「菌周内科治療」を受けることで歯周病、予防治療に役立て再発のリスクを低減している

口や歯も加齢により衰えていく

“オーラルフレイル”の兆しを見ることで

口の中も健康に保つことが大切

“共食”もフレイルの予防には有効



うに、食事の際の嚙む力・飲み込む力を向上するための、口の筋肉を運動によって動かすことが重要です。介護施設に伺った際には、施設のスタッフの方に食事の前に舌を動かす運動などを、入居者に勧めるように指導しています。

山内 高齢者の口腔ケアで言えば、「オーラル・フレイル」という概念も注目を集めています。そもそもフレイルとは、加齢による身体の衰えのことなのですが、それが口や歯にも当てはまるのです。例えば口が渴いたり、以前より滑舌が悪くなったり、食べ物をこぼすようになったりなどが特徴です。定期的な検診で、フレイルの兆しを診てもらうことが、口の健康に繋がります。

湖山 身体の衰えと、年齢意識のギャップは危険を生むことがありますね。たとえば50歳を超えているのに、若い意識で運動をすると怪我をしたり。私は非常に早食いなのですが、喋りながら早く食べると、本当に時々ですが、むせるようになりました(笑)。

山内 早食いは食べ物をあまり噛まないため、オーラルフレイルが訪れる確率が非常に高まりますよ。ゆつくり味わい、会話を楽しみながら食事をする。共食がフレイルの予防には大切です。

ひとりで食事をする“孤食”が人間に与える影響とは？

長谷川 ひとりで食事をする「孤食」も問題になっていきますね。お年寄りでも、小さな子どもでも、ひとりで食べるとしっかり噛まないことにより口の筋肉がどんどん衰えてしまうんです。

湖山 孤食を解消するために、地域の子どもたちを集めて食事の場を提供する「子ども食堂」が全国に広がっていますが、私は介護施設を「子ども食堂」の代わりに出来るのではと考えているんです。川崎の特養ホームに、4歳と10歳の娘がいる看護師の方が働いてい





るのですが、彼女は施設にお子さんを連れてきています。娘さんたちは、そこで入居者とお話をしたり、お茶を持っていったりしているんですよ。それを見て私は、子どもと高齢者の共生が実現できると思いました。介護施設は大人もいるので安全ですし、そこで子どもたちを集めて食事を食べてもらうというのは第二の「子ども食堂」になると考えています。それに介護施設の食事は栄養バランスも完璧ですからね。

長谷川 埼玉県狭山市に新しく出来た「狭山公樹会」は、施設の隣にある保育園と自由に行き来が出来るようになっていて、子どもとお年寄りの共生の第一歩になりそうです。

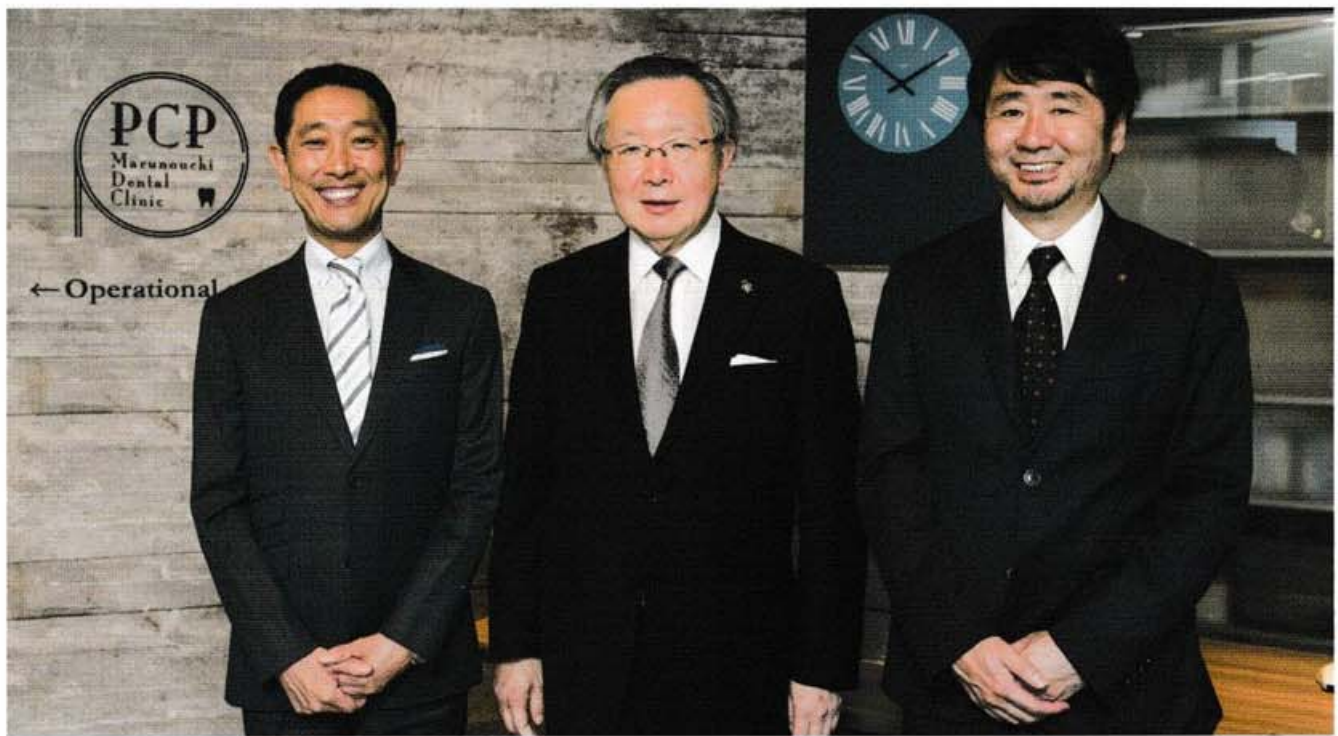
湖山 あその施設は、子どもたちに気軽に来てもらうために「地域交流室」を作りました。部屋の中には絵本が1000冊置いてあって、図書館になっているんです。毎日保育園の先生が子どもたちを連れて遊びに来て、楽しんでもらっています。お年寄りの方も子どもたちが来ると、顔が明るくなり元気を貰っているみたいです。

山内 素晴らしいです。私もぜひ協力したいです。そして、絵本をプレゼントしに行きたいです(笑)。

湖山 山内先生や、長谷川先生には、

むしろ施設長として来ていただきたいと思っただけです。現在介護施設では入居者の要介護度が平均39を超え、重度の方が多くなっている傾向にあり、医療の重要性が高まっているんです。そこで湖山グループでは実験的に、医師や看護師、理学療法士といった、医療のプロフェッショナルの方を施設長に迎えた介護施設を増やしています。しかし、未だ歯科医師を施設長にした施設はありません。一口に「入居者」と言っても、みなさん異なる身体の問題を抱えているので、それを解決するのが特化型の介護施設だと考えています。やはり口で苦しんでいる方も多々あります。だからこそ、歯科医師の





長谷川 浩之 (はせがわ ひろゆき)

1960年東京都生まれ。医療法人社団浩昭会理事長。PCP 丸の内デンタルクリニック理事長。丸の内水楽ビル歯科クリニック理事長。日本訪問歯科協会認定医。ドライマウス研究会認定医など。現在はふれあい歯科グループ代表として東京、神奈川、埼玉、仙台で訪問歯科診療も行っている

湖山 泰成 (こやま やすなり)

1955年東京都生まれ。湖山医療福祉グループ代表。順天堂大学スポーツ健康科学部客員教授。英知大学大学院修士課程修了。三井信託銀行勤務を経て、父・聖道氏が院長を務める銀座菊池病院役員として経営を再建。その後、日本全国に数多くの病院、介護施設などを展開し、現職

山内 宏治 (やまうち こうじ)

1963年生まれ。医療法人社団銀座メディカルデンタルクリニック理事長、プランバ梅田デンタルクリニック院長。歯科医師。ミシガン州グランドラビッツにて幼少を過ごす。日本のインプラント黎明期に歯科インプラント中心に診療従事。現在は CAD/CAM と日本の歯科技工を応用し、通わなくてもいい歯医者者の発展に注進

方に介護施設の施設長になっても
らいたいです。あとは私自身の
ためにも、栄養士が施設長を務め
る糖尿病特化型の施設も作りたい
ですね(笑)。

山内 歯医者施設長になるとい
うのは、歯科業界のターニングポ
イントにもなると感じます。歯科
医師は若いときに開業するので、
多くの経験を積むのですが、どう
しても50歳を過ぎたあたりから老
眼になってしまい、施術のスピー
ドが落ちてしまうんです。そうな
ると外来という方式だと、多くの
患者さんを診ることが難しくなっ
てしまいます。そういうときに介
護施設で限られた数の患者さん、
ひとりひとりに向かい合うとい
うのは、歯科医師の新たな道にな
らずです。

長谷川 外来診療と異なるモデル
と言うと、私たちが行っている訪
問診療も近いところがあります。
いま働いてもらっている歯科
医師、歯科衛生士の方は、子育て
中で長時間の仕事は出来ないとい
う女性が多くいらっしゃいます。
訪問診療の場合は、一日に決まっ
た施設に伺い診療をするので、フ
レキシブルに働けるため、家事や
子育てと両立して働けるんです。

湖山 歯科業界の働き方改革にな
っているんですね。長谷川先生は

都心で先進的な外来のクリニック
をやりながら、訪問診療も行って
いますが、どのような点が異なる
と考えていますか？

長谷川 あまり両者を分けて考え
ていません。私の歯科医師として
のモットーは「医食同源」という
言葉です。当然のことながら我々
人間は、口から栄養を摂って、は
じめて健康な毎日をごせるよう
になるわけです。歯科医療とい
うのは、真っ先に口の中に入って
くる食べ物を美味しく、しっかりと
噛み砕いて、体に優しいように運
べるようにするという点で一般診
療も、訪問診療も全く同じこと
ではないでしょうか。高齢者の方
々に美味しく、楽しく健康にそし
て健康になっていただけるようなお
手伝いができることがまずは真っ
先に重要なことだと考えています。

湖山 湖山グループは医療と介護
と暮らしを、3 in 1 という形で連
携することを目指しています。最
先端の医療と歯科をどのように介
護の現場に提供していくかを考え
たときに、山内先生、長谷川先生
のクリニックとどうネットワーク
を築いていくかが新しい地域包括
ケアの鍵になると考えています。
私は歯科医師の新しい世界を作り
たいという野望を持っているので、
3人で協力して実現しましょう。